

# メヒシバ除草に有望な新除草剤の紹介

自分の庭園に芝生を作ろうとする人々が芝生の中の雑草「メヒシバ」を安全、且つ効果的に除草することのできる発芽前処理の除草剤が発見された。

この種の除草剤について必要な条件は、この化学物質が全ての「メヒシバ」に対して殺草効果があつて然も肝心の芝生草には無害であることと、同じ日に薬剤散布と播種を行なつて発芽する芝生の幼草が雑草との競合なしに生育を始めることが出来、且つ処理後数週間に亘つて殺草効果が残っている事と選択的な効果を持つてゐることである。

更にもう一つの条件としては、未経験な人が使用しても安全でなければならぬ。ペンシルバニア大学の芝生の研究者は、ある化学物質をテストした結果、それが前記の要求を満たすものであることを発見した。

新播の芝生における試験では、この除草剤は、芝生の幼草を害することなく、発芽生長する「メヒシバ」の幼草を殺草した。薬剤散布の量にもよるが、初年目の試験では九九〜一〇〇%の除草効果があつた。「メヒシバ」の除草を完全に行なうには一〇リットルあたり有効成分で一キログラムの量が必要であつた。

この化学物質は現在H-1318として知られて居り、一九六五年の春テューパーサン (Turpersan) という商品名で、ある会社が製造を行なつてゐる。

H-1318は五種類の芝草種子の発芽に影響はなかつたが、初期生育時に僅かに

生育抑制の影響が認められた。

しかし三週間後にはこれ等の芝草は正常な生育をとり戻し、処理による害は全く見受けられなくなつた。

試験に供された五種類の芝草はメリオンケンタッキーブルーグラス、コモンケンタッキーブルーグラス、クリーピングレッドフェスク、コロンIALペンントグラス及びレッドトップである。この試験成績によつて、雑草のない芝草を播き雑草のない芝生を維持したいと望んでいる庭園芝生の持主にとつて、H-1318は大いにその期待にこたえてくれるであらう。

メヒシバが故意に播種された場合でも、この除草剤は、ほとんど完全に除草の効果を発揮した。

大学の庭園に設けた試験圃はすべて発芽と生育を最良にするため灌水され、五月中旬にこの除草剤が散布された。

H-1318の殺草力は「メヒシバ」の生長に伴つて低下する。

五週目のメヒシバに使用した時は、使用の有効成分量にもよるが、二〇〜七〇%の除草率であつた。

この除草剤の残効あるいは持続効力については、よく判っていないので、これを確認するため、引続き試験が行なわれている。もしこの除草剤が土壤中でかなり長期間に亘り効力を持続できることが判明するならば、メヒシバの成長後に薬剤散布を行なうことは不要となる。

H-1318に関する試験は更に二年以上は継続されることになっており、その後

に普及されることにならう。

ペンシルバニア大学 農業試験場

ベン・R・フレミング  
ヨセフ・M・デュッチ

	有効成分量 kg/10 a	除草率 % (8月30日)
H-1318 施用量	0.51	99
	0.77	100
	1.02	100
	1.53	100
メヒシバ類に対する除草剤 H-13189の除草効果 (1964年5月27日播種時施用)		

	有効成分量 kg/10 a	メヒシバ類		
		除草率 %	褪 色 %	枯 死 %
H-1318 Turpersan 施用量	0.68	92	0	0
	0.91	98	0	0
	1.13	100	0	0
	2.26	100	0	0
	3.39	100	0	0
H-1318をペンシルバニア大学内のケンタッキーブルーグラスの芝生園に発芽前に施用した時、メヒシバ類の除草割合と芝草の褪色、枯死の割合 (1964年5月14日施用)				